

## VI 筑波大学附属久里浜養護学校との相互協力

筑波大学附属久里浜養護学校は、国立久里浜養護学校として、本研究所が行う実際的な教育研究等に協力する目的をもって、本研究所との相互協力の下に教育を行う養護学校として昭和48年に設置されたが、平成16年4月に国立大学等の法人化に伴い、国立大学法人筑波大学附属久里浜養護学校として筑波大学に移管され、自閉症の教育研究に特化した養護学校として再出発した。

そのため、本研究所の中期目標も「筑波大学附属久里浜養護学校との密接な連携の下に、自閉症の教育に関する実際的な研究を行うとともに、在学児童等の教育についての相互協力を推進する。」と改正し、平成16年度計画には、「重度・重複障害の教育研究における国立久里浜養護学校との相互協力による実績を踏まえ、国として、喫緊かつ重大な課題である養護学校等における自閉症の教育に資するため、新たに筑波大学の基礎研究と本研究所の実際的な研究との密接な協力関係を構築する。」を掲げ、平成16年7月に、本研究所と筑波大学において、筑波大学附属久里浜養護学校との教育研究協力を推進するための協定を取り交わした。

また、平成16年11月には、本研究所と久里浜養護学校が相互協力する事業を円滑に推進するため、相互協力推進に関する要項を制定し、相互協力推進グループを設置した。相互協力推進グループには研究、研修、医療・諸検査及び教育相談の推進チームを配置した。

なお、平成17年3月現在、筑波大学附属久里浜養護学校の在籍幼児児童（以下、「児童等」とする。）数は44名（うち、4名が寄宿舎生）、教職員数は校長以下51名である。教室は、幼稚部教室（13名在籍、2学習室）、小学部第1教室（低学年、24名在籍、4学習室）、小学部第2教室（高学年、7名在籍、1学習室）で構成されている。

### 1 研究推進チームによる相互協力状況

(1) プロジェクト研究「養護学校等における自閉症を併せ有する幼児児童生徒の特性に応じた教育的支援に関する研究—知的障害養護学校における指導内容、指導法、環境整備を中心に—」に関連し、PEP-R検査や共同での調査・学会発表などを実施した。

(2) プロジェクト研究等における研究協力者としての学校教員の協力等

従来より、各研究については、研究協力者及び研究のフィールドについて、学校より協力を得ている。今年度に、学校を研究協力機関とした課題は1課題、学校職員を研究協力者とした課題は1課題であった。それぞれの課題は以下のとおりである。

ア プロジェクト研究で学校を研究協力機関とした課題—1課題

○ 養護学校等における自閉症を併せ有する幼児児童生徒の特性に応じた教育的支援に関する研究—知的障害養護学校における指導内容、指導法、環境整備を中心に—

イ プロジェクト研究で学校職員を研究協力者とした課題—1課題2名

○ 養護学校等における自閉症を併せ有する幼児児童生徒の特性に応じた教育的支援に関する研究—知的障害養護学校における指導内容、指導法、環境整備を中心に—

### 2 研修推進チームによる相互協力状況

(1) 17年度に予定の「自閉症教育推進指導者講習会」にむけて、相互協力内容を検討した。

(2) 長期研修、短期研修、各講習会、研究協議会における実地研修、施設見学を実施した。

(3) 学校教員の短期研修、各講習会、研究協議会への受講者を受け入れた。

(4) 研究所職員と同様に「図書利用証」を発行し、自由に図書利用ができるようにした。

### 3 医療・諸検査推進チームによる相互協力状況

#### (1) 視機能評価と聴力検査への協力

在籍幼児児童の視機能評価と聴力検査を毎年行い、教育活動に資することを目的に実施している。

#### (2) 医師免許を有する研究職員2名が、学校医として、定期健康診断、修学旅行事前検診、インフルエンザワクチン接種などの協力をしている。

### 4 教育相談チーム

#### (1) 入学者選考における協力

入学希望者等に係る選考の基礎的資料の作成については、学校長の要請を受け、教育相談センターが窓口となり、関係する研究職員の協力を得て作成し、理事長を通じて学校長に提出している。

具体的には、入学・転入学を希望する児童等に対し、研究職員（医師免許を有する研究職員を含む）が、入学相談担当教員及び看護師の協力を得て視力等の検査、行動観察及び診察を行い、その結果を基に教育相談センター長、検査及び行動観察担当研究職員並びに医師免許を有する研究職員が書式に即して選考のための基礎的資料を作成している。

今年度では、幼稚部入学希望者4名、小学部入学希望者14名、計18名の幼児児童について基礎的資料を作成した。

### 5 まとめと今後の課題

筑波大学附属久里浜養護学校は、平成16年度から知的障害を伴う自閉症の教育研究を行う学校として再出発した。これまでの重度・重複障害教育の教育研究における本研究所と学校との相互協力による実績を踏まえ、国として喫緊かつ重大な課題である養護学校等における自閉症の教育に資するため、筑波大学の基礎的研究と本研究所の実際的研究との協同を進め、引き続き三者による協力関係をより充実していくことが課題である。